

今こそみんなの力で

三年A組 松澤 由季

現在、世界中で新型コロナウイルスが流行しています。日本でも多くの人が感染し、経済や生活様式など、あらゆる面で大きな影響を及ぼしています。皆さんにも何らかの影響があり、様々な思いを抱いているのではないのでしょうか。今年入学した一年生は楽しみにしていた春が自粛生活になってしまったり、行事や学習が沢山あるはずの二年生も中止や延期、変更の連続だったり、三年生は受験や就職など人生の分岐点を目前に多くの不安を抱えていると思います。

私自身も、病院実習が中止や短縮になったりと、本来のカリキュラムをこなせないまま、専攻科に上がることが不安です。このように、形は違えどみんな何かしらかかっているものがあると思います。

新型コロナウイルスによって生活は一変し右往左往している毎日ですが、このウイルスの一番怖いところは何だと思えますか。感染して苦しい思いをする、収入が減る、生活に制限がかかるなど、たくさんあると思います。私は、人の心さえも蝕んでしまうところが怖いと思います。

そう思ったきっかけは、自分の含め、世の中の人の心に余裕がなくなっていると感じたからです。普段は穏やかだった人が棘のある性格になったり、以前に比べて気分が落ち込んでいる人を見かけたとき、コロナは身体だけでなく、心も蝕んでいく存在だと思いました。

私の姉は現在大阪で育児中なのですが、一歳の子供と二人きりで家にいる生活を半

年近く続けています。子供を公園に連れていくことすらできず、自分自身もほとんど外に出ないので一時期は、「社会と疎遠になっている気がして孤独を感じる。」と言っていました。また、兄は中国で働いています。日本に用事があり、一時帰国する予定が規制がかかったため、結局帰国できず、ストレスを溜めながら、今も中国にいます。

他にも収入が減ってしまった人や、仕事が減った人、結婚式が再延期になった人などいろいろな事情を抱えた人を見てきました。ニュースでも転売や詐欺、感染者への誹謗中傷や特定の職業に対する差別など、様々な社会問題が報道されています。それらを見たとき、荒んだ世の中だなと感じ、悲しくなります。ですが、そんな世の中になっってしまうのも仕方のないことだと思います。みんな必死で、みんな緊張していて、みんな何かしらの思いを抱き、リスクを背負いながら毎日過ごしています。余裕がなくなり、疲れてしまうのは当然のことです。だからこそ、一人一人が思いやりをもって生活することが大事なのではないでしょうか。

私の場合、定期的に姉夫婦とビデオ通話をします。近況報告することで、お互いの無事を確認できるので、離れていても安心です。電話を切る時には必ず「大変やけど頑張ろう、何かあったら一人で抱え込まずにいつでも言ってね」とお互いに声を掛け合います。こういったことが、心の支えになり、明日からまた頑張ろうと笑顔になります。

また、最近では感染者への誹謗中傷が相次いでいます。名前や住所、勤務先や顔真などの個人情報が特定され、ネットなどで攻撃されるのはとても恐ろしいことだと思います。確かに、不十分な予防で感染した場合、普段から徹底して気を付けている

人は憤りを感じると思います。それでも、誹謗中傷が認められるわけではありません。心の傷は治るまでに長い時間がかかります。感染者の身体が回復しても心に深い傷を負ってしまったら、それは完全に回復したとは言えないと思います。私たちの敵はウイルスなので、もう少し温かい世の中になり、人々が傷つけあうことなく、収束を目指せるようになってほしいと心から思います。

新型コロナウイルスに対して思うことはそれぞれ沢山あると思いますが「コロナが収束し、これまでの日常に戻りたい」という思いはみんな一緒だと思っています。だから今こそ、みんなの力でこの状況を乗り越えましょう。そして、収束したら、これまで我慢してきた分も思い切り楽しみましょう。